(一)　第611号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和35年(1960)2月14日（日）

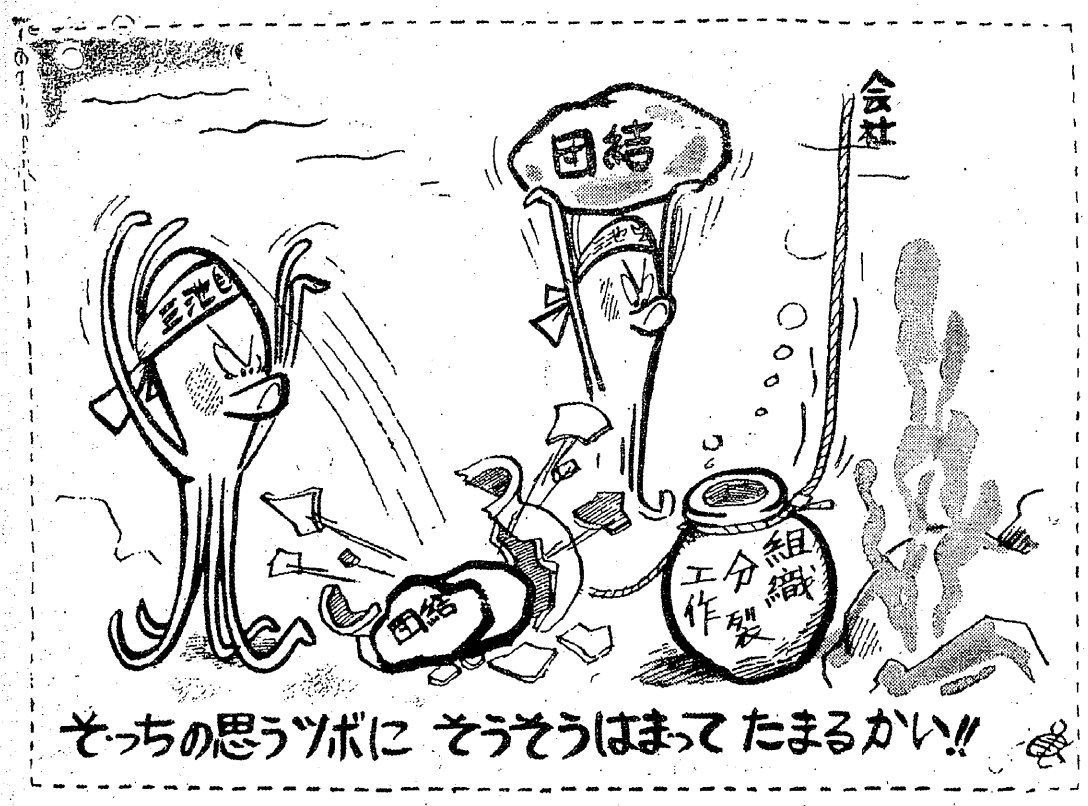
発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
7140番
編集兼発行人　北岡　隆

会社の悪質な切り崩しを 団結で粉砕しよう！

緊急警戒態勢確立の指示でる

ますますかたまっていくわれわれの団結をおそれる会社は、悪質な切りくずしにやつきになっている、いまわれわれはこの切りくずしを粉砕し、団結を守つて闘いぬくための「緊急警戒態勢確立」の指示によつて、敵の策動をハネ返えす態勢強化をはからなければならない。

さいきん目だつて露骨になつた会社の切りくずし策動を粉砕し団結を守つて闘いぬくために、二月九日にだされた三池労組の指示は次のとおりである。



決起大会に集ろう

二月二十五日に笹林公園で、炭労代議員歓迎の総決起大会がひらかれる、大会に全員結集しよう。

緊急警戒態勢の確立

われわれは、不当ロック・アウトにつづく会社側の悪らつな組織かく乱工作についての警戒態勢の確立に努めて来たが、その後の総評・炭労・三鉱連の支援・共闘態勢の強化に伴い、それを怖れる会社側の組織かく乱は昨今急激に激化され「批判勢力」の名を借りる第三者のシユン動も絶対に軽視できぬものがある。

したがつて当面、会社側は二月十五日からの炭労臨時大会のカンパ態勢の阻止に全力を傾注することが明らかである。

よつてわれわれは、炭労臨時大会に結集する全労働者階級の支援・共闘にこたえ三池争石の態勢を確保するため左記の通り指示する

記

一、各地域分会長は全分会員の行動を完全に掌握し、支部闘争委員長の指示に即応できる態勢を確立せよ。

一、各組合員は、組合主催以外の諸集会に参加する場合必ず分会長を通じて支部闘争委員長の諒解を得ること。

一、全炭労の組織的運命につながる今次闘争の推進を阻害するなどの利敵行為に走る者については、厳重なる統制権の発動を行う。

一、その他、具体的細部事項については支部闘争委員長の指示に従え。

以上

この指示でもあきらかなように、会社は十五日からひらかれる炭労臨時大会できめられるカンパをふくむ闘争態勢確立をさまたげようと必死だが、その妨害を粉砕して炭労の闘う態勢はうちたてられるであろう。

こうしてますますひろがりたかまつていく炭労をはじめ全労働者の団結の前に、敵は一層露骨な策動をかけてくるにちがいない。

そして現に、一部組合員には敵の策動にのつて闘いに水をさすうごきをとつている者もいるといわれている。

このような敵の攻撃と仲間を売る裏切りをみんなの団結でうちくだくかまえを強め、クビ切り合理化をハネ返えさねばならない。

合理化強行の犠牲

急増する炭鉱災害

△…二月一日朝、北海道の北炭夕張鉱業所第二鉱内でガス爆発があり、保安作業中の炭鉱労働者四十二人がその災害の導い犠牲になつた。この災害は三菱勝田（昭和二十二年＝六十二人死亡）、雄別茂尻（昭和三十年＝六十人死亡）の災害につぐ戦後三番目の重大災害である。当日はたまたま日曜日の三番方であつたため保安要員の犠牲だけにとどまつたが災害発生が数時間おそかつたら日曜日の一番方の労働者千数百人が犠牲になつていただろうといわれる。

△…災害は保安確保のため労働者が実力をもつて立ちあがろうとしていた直前に発生した。経営者は合理化による労働者の配置転換ばかりをすすめ、保安を無視した増産体制をつくりあげていた。労働者は保安無視にたいし再三抗議し職場闘争を行なつてきたが、経営者は改善しようとしないため一月二十五日「保安支柱員の大半が材料運搬にまわされ、坑道保全がかけている」「坑道を維持する人員をよこせ」など十数項目の保安確保の要求をだしストライキにはいろうとしていた。

△…炭鉱の災害は昨年来急増している。今年にはいつてからもすでに一月二十一日に北炭幌内で運搬事故により死亡四人、重軽傷十一人をだし、同じく二十五日には北炭空知でガス爆発があり五人が死亡した。それにひきつづく今回の災害であり、炭鉱労働者は近々五十日間に災害によつて百五十人以上が命をうばわれた。戦後を通算すると一万人以上が犠牲となり、百二十万人が傷ついている。災害は最近では中小鉱から大手鉱山に多く発生している。このことはいま政府と独占がたくらんでいる石炭産業の合理化が、労働者の生命無視の上に進められていることを如実に物語つている。鉱山保安局長も「合理化の進行で鉱山保安面をおろそかにしているのではないかと心配し、各社に勧告したばかりだつた」といつている。

△…炭労は声明の中でつぎのようにいつている。「昨年重大災害が続発したさい、その原因が大量首切り合理化を強行しながら保安管理をないがしろにした増産体制にあることを指摘し、警告した。にもかかわらずひきつづく重大災害の発生は、いかに労働者の生命を無視して増産が強行されているかということの証明だ。とくに北炭は首切りをしないことを口実に増産を強行し災害を招いているのであるから、他の炭鉱はさらに一触即発の状態にさらされていることは明らかだ。われわれは責任追及とあわせ生命を守るために、首切り合理化反対闘争と保安確保の闘いを強力をすすめる」

全国オルグ次々帰山

全国向けの三池からの逆オルグは各地区でオルグ活動をおこなつていたが、つぎつぎと活動を終えて帰山している。

三池闘争への関心は急速に高まりをみせているが、第二次のオルグは予想以上の成果をあげて帰山した。

闘争批判者にお願い

四山　一けい肺患者

私は現在入院療養中の一けい肺患者です。会社の第一次企業合理化再建案の提示いらい、心を痛め療養の身もかえり見ず、デモの隊列にこそ加わらないが、すでに数回の決起大会に参加して背後にいて組合員諸氏の固い団結の様子を感じ、心強くたのもしく思つてきました。

ところが、闘争が深刻な様相になるにしたがい、マス・コミや街の雑音はともかく、組合員の一部に批判勢力が出たりして、こんごの闘争の推移に少なからぬ不安を感じています。

二月九日、三池労組は「緊急警戒態勢の確立」についての指示をだした。

それは、不当ロック・アウトを契機とした会社の組織かくらんがはげしくなり「批判勢力」の名を借りる第三者のしゆん動も絶対に軽視できぬものがあり、さらに組織内部にも、敵の策動に乗ぜられて動揺しているものが全くないとはいえない状態にあつたからである。

会社の切りくずし策動はものすごいものがある。とくに「三池労組有志」「三池炭鉱一主婦」などと三池労組の組合員名や主婦名をつかつたりして、全国にばらまかれているデマ・宣伝は悪質といわなければならない。また本部・支部にもいやがらせの手紙やはがきが舞いこんでくるが、これらに共通していることは、決して個人名を明記していない点である。

このような卑屈な態度から、これらのデマ・宣伝やいやがらせは直接会社側の手によるものか、あるいは第三者または会社の策動に乗ぜられた「裏切分子」の手による切りくずしだと断ぜられる。

労仂組合こそ民主主義のとりであり、その運営はもつとも民主的であり、すべて組合員の意志によつてきめられているものである

前進　切り崩しを粉砕しよう

そこにはほんとうの意味の「自由」がありまた「建設的な批判の自由」も保障されているのである

事実われわれは、いままでもそうであつたように今次闘争の推進にあたつては、すべて職場・地域での大衆的な討議・討論を徹底しそれを土台にした機関決定によつて方針を決定しているのである。

だからこそ、われわれの団結を切りくずし闘いをがかいしようとたくらむ敵の策動にたいしては徹底して闘わねばならないし、その策動に乗つて仲間を売る「裏切分子」にたいしては、組織人としての最高のしゆん厳さをもつて望まねばならないのである。

たしかに会社側の切りくずし策動は目にあまるものがあり、これを粉砕する態勢強化に力をそそぐ必要があるが、敵の策動は決して恐れるに足らない。

われわれをつつむ全国の仲間たちの団結と共闘は日毎にひろがり強化されており、この策動はわれわれの団結においつめられた敵のあせりであるからである。

われわれは全国のきようだいたちの連帯と団結のはげましにこたえて、仲間を売つて敵につうずる「裏切り」を断固粉砕しなければならない。

(1)もう少し組合も会社も話合いの場をもたれるよう望む　(2)組合の闘争には行過ぎがあり政治闘争はいけない　(3)一万円生活はわれわれに餓死を強要している　(4)現在の闘争にたいして組合員の中に日和見主義者がいる

以上は六日午後九時のラジオ九州の「時の潮」録音ルポ「一万円生活の周囲を見て」の放送の中での発言であり、これは第三者や街の声でもなく、他産業のオルグが多数来援し、連日のように学習活動の活発な社宅の中の一部の組合員と主婦の声であつた。

しかし、話合いに応じないのは会社であり、組合ぶつつぶしや不当なるロック・アウトの暴挙に出た会社側にこそ向けるべき批判であり、見当違いもはなはだしいといわなければならない。私は、現在の三池労組が決して強力なものでなく、歯がゆい思いをしている者だが、現在の日本の政治経済体制を打破せずして、労働者の生活の向上は到底望むべくもなく、政治闘争はいささかもおろそかにすべきでないと信じている。今回私はじめてきくことだが、組合内に日和見主義者のいることが果して事実とすれば、これは組合批判者よりなお始末の悪い存在である。一万円生活にしても、生きるだけの生活は維持できるはずである。

今次闘争がかりに一敗地にまみれんか、こちらが一歩引けば二歩押してくる会社の出方から推察して、恐らく過去に血みどろの闘争で勝取つた既得権は、ことごとく反古になることは明らかであろう

批判者の諸氏は会社の覚えがよいので組合がまけても何ら影響はないとお考えだろうが、さいきんひんぱんに起きている大手の災害をいかに思いますか。私たちのような足手まといや千二百余名の同じ釜の飯を食つた同志を見殺しにしないようがつちりスクラムを組んで前進していただくようお願いします。そのため会社がつぶれるような場合は、いさぎよくあきらめます。一万五千名マクラを並べて討死しようではありませんか。だが、心配ご無用、会社はつぶれないでしよう。中山あつせん案を拒否したのが何よりの証拠です。